

【「二次的自然環境や水辺環境保全の理論や実践」について】



黒沢准教授（福島大学）による講演

南湖の植物の過去、現在、未来
黒沢高亮（福島大学共生システム理工学専攻）



現在の南湖の植物



- ・南湖は良好な里山だった。
- ・1950年代サギソウが咲きバイカモがたなびいていた。
- ・1960年以降、岸の湿草が消滅。
- ・1992年、ジュンサイ等が絶滅し、南湖の植生が大きく変化。
- ・現在は、悪名高きコカナダモが繁茂している。
- ・カキツバタ等の絶滅危惧種の8類が湿地や湖内に現存する。
- ・絶滅したジュンサイの種子が砂泥から確認され、復元の可能性あり。
- ・今後は、残された湿地の保全、侵略的外来種の除去、昔の南湖の動植物の復元が必要。

南湖は良好な里山だった。昔の南湖には、42種類の絶滅危惧植物があった。外来種等を排除し昔の南湖の動植物を復元することが重要。

【白河市南湖公園地区の取り組みについて】



県南建設事務所企画調査グループによる説明



南湖公園の概要
1801年に白河藩主松平定信(楽翁公)が水利開発と貧困者救済のため築造
「四民共楽」の理念の基に、庶民に開放された日本最初の公園
国指定文化財(史跡・名勝)
県立自然公園、都市公園
1級河川、農業用ため池
県南地域有数の観光地

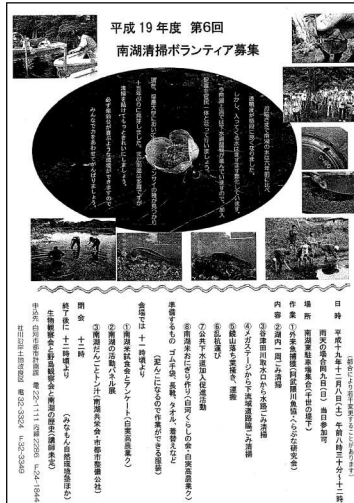
- ・南湖公園ワークショップは、元氣ふくしま、地域づくり、交流促進事業で行っている。
- ・これまでは、プラン策定やイベントなどを中心に行ってきた。
- ・短期プランについては、ほぼ達成している。
- ・今年度は、南湖の理解をより深めるための検討会を予定している。
- ・南湖の課題に対して、市民活動として南湖池干し清掃ボランティア等を行っているが、白河市と連携して強化を図りたい。
- ・『楽翁公のこころを未来へ』
- ・一度悪化した環境を戻すには、長い年月と地道な努力が必要。

今後も、歴史・文化的資産である南湖を良好な状態で後世に継承するため、市民と行政が協働で保全・利活用に取り組む。

【市民ネットワーク強化に関する意見交換】



白河市建設部都市計画課による説明



- ・平成20年度に、楽翁公の250年生誕祭を行う予定。生誕祭の実行委員会に南湖祭のメンバーの御協力をお願いしたい。
- ・第6回南湖清掃ボランティアに協力をお願いしたい。(12月8日)南湖清掃により、だいぶ水質が良くなった。(どぶ臭さが改善された)
 - ・役割分担の説明。
 - ・外来魚の駆除。
 - ・鏡の山の落葉かき。
 - ・南湖の乱杭復旧。
 - ・淡水魚の展示会等。

平成19年度 第6回 南湖清掃ボランティアへの協力依頼等。

質問

- Q1 赤松への空中散布は生態系に悪影響を与えるのでは？
- Q2 松に、こもを巻いているが撤去後の処理はどのようにすべきか？
- Q3 ジュンサイ復活が出来ない理由は？

黒沢先生の回答

- A1 空中散布も一定の効果がある。問題は生態系に与える悪影響である。松の樹勢を回復する方法や、松の木に薬を注入する方法などがある。費用と効果を比べながら防除方法を決めていくのが良いと思う。
- A2 松が生きている時に入った虫と、枯れた後に入る虫が同じであるかという問題がある。こもを焼くか焼かないかは、原因を解明し対処したほうが良い。
- A3 ジュンサイがどの条件で発芽するかは、まだ分かっていない。1つの可能性として、これまでの実験では、水の底ではなく、緩傾斜地の水際で発芽した。そうだとすると今の南湖は、そういった発芽環境にはないかもしれない。また、水質のせいで芽を出さないのかもしれない。

質問

- Q1 空中散布はコスト的に高いのでは？もっと新しい方法はないか？
- Q2 南湖を汚染している白河市の下水道の整備を早くしてほしい。南湖の池がきれいにならないのでは？
- Q3 「楽翁公のこころを未来に」とあるが、公園としての南湖を考える必要がある。6つの方針を見て、若干欠けているのではないか。水質を良くするとか、植物を復元するという事は大切だが、観光地としての南湖をどのように作っていくか、市民が共に楽しむという事を基本に据えるべきだと思う。

県、市の回答

- A1 空中散布は、年に1回実施して、費用は約100万円かかる。松に直接薬を入れる方法もあるが、費用には1本3万~4万で総費用4000万程度かけないと効果がない。地上散布もあるが松の木頂上までの散布は不可能である。
- A2 今後とも、上流の世帯に水切りネットを配ったり、池干し時のパネル展などの啓発活動を行いたい。御協力宜しくお願いする。
- A3 今後の参考にさせて頂きたい。南湖公園ワークショップでは、散策パンフレットなども作っている。

要望

- ・南湖の植物について、原点に戻って南湖の植物研究会のようなものを作ってほしい。

黒沢准教授からのアドバイス

- ・昔の南湖は、遊び場であり生活の一部であった。現在は、観光資源としてのみ利用しているが、地元の人々の利用というのも復活できれば良いと思う。

まとめ

- ・今回皆さんに頂いた、貴重なご意見やご要望を今後の南湖公園の保全・利活用に活かしていきたいと思っております。